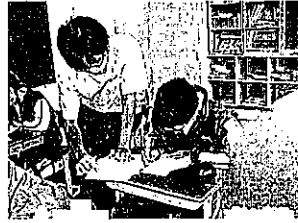


# 共に学び、共に高めあう

母校に！地域に！学習支援ボランティア！



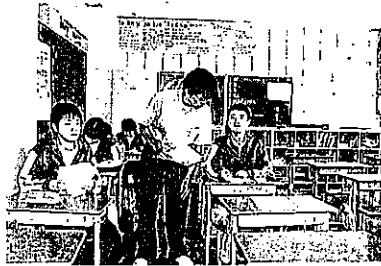
県立七戸高校・七戸中学校・城南小学校 学習支援ボランティア

## この取組を紹介したわけ

七戸町は、町ぐるみ教育推進委員会を設置し、町全体で地域の連携に取り組んでいます。いろいろな取組を積極的に行い、地域の発展を進めている中、県立七戸高校と七戸町立七戸中学校の両者の思いが一致した一つの取組として、3年前に学習支援ボランティアが始まりました。その後、この取組は城南小学校への学習支援ボランティアへと広がり、現在に至っています。

地域が連携して子どもたちを育てようという思いが町の中にあふれている七戸町で、高校生が地域貢献という願いを込めて、母校の中学校や近隣の小学校に出向いて、学習のお手伝いで頑張っています。同じ町の中にある学校が互いに手を取り合って、共に学び、共に高めあおうとしている活動です。

## このような活動です



夏休みに行われる、七戸中学校と城南小学校の学習会に、七戸高校の生徒が学習支援ボランティアとして参加します。また、七戸中学校には、部活動支援ボランティアとしても参加します。

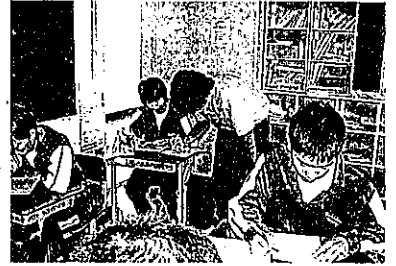
七戸中学校での学習支援ボランティアは、七戸中学校で夏休み中に行われている英語と数学の3年生の学習会（希望制）に3日間、それぞれ2～4名の七戸高校の生徒が参加します。1クラス

30名程度教室の中で机間巡視をしながら学習支援をしたり、丸つけをしたりします。学習会の進行・指導は中学校の教師が行い、七戸高校生は、補助という形ですが、日に日に中学生と高校生がうちとけ、高校生が気軽に声をかけたり、中学生が手をあげて高校生を呼んだりする姿が見られるようになります。

夏休みの前半に行われる3日間の学習会で英語を支援し、後半の3日間では数学を支援しています。また、一昨年は同時期にサッカー部とバスケット部の部活動支援も行いました。

城南小学校での学習支援は、夏休みに行われている5年生のサマースクール（学習会）に

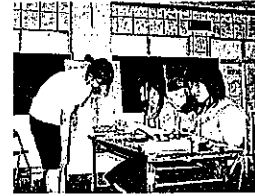
3日間学習支援ボランティアとして参加します。主にドリル学習の丸つけの手伝いや子どもたちへの解説を行います。中学校の学習支援と同じように学習会の進行・指導は小学校の教師が行い、七戸高校生が児童への個別支援を行います。



1クラスに入る学習支援ボランティアの数は2～3名で、国語、算数、理科、社会の4教科の学習会で支援を行います。

子どもたちにはわかりやすいと、大変好評な活動です。

## このような活動です



七戸高校は進路指導主任が窓口となっており、七戸中学校は教頭と3学年主任、城南小学校は教頭と5学年主任が連絡と調整を行っています。

学習支援ボランティアは、現在のところ七戸中学校と城南小学校の学習会の日程に合わせる形で活動しています。七戸高校の2学期始業式が小中学校より早いため、小中合わせて6日間しか支援が受けられないのですが、日程が合うのであれば、もっと日数を増やしたいと思っています。

「七戸高校の学習支援ボランティア」は、将来教職や青少年指導に当たる人材を育てるといふ目的もあります。生徒たちは、そのため事前に学習支援をする意義を十分に理解してボランティアに臨むことになります。

中学校を担当する生徒は英語、数学といった得意教科を担当するので、事前の打合せは比較的簡単に済みますが、小学校は支

【第1回】 七戸町教育文化振興会主催「七戸町2008年（平成20年）夏休み学習会」

## 七戸町学校支援ボランティア

毎年夏休みに入ると、七戸町の小中学校の学習支援ボランティア、今年も20日に於いて、今年度より七戸高校で支援活動を行うボランティアが、日夜ある城南小学校の中学校と七戸町の七戸中学校の両校に於いて、7月20日（日）に七戸町立七戸中学校で、七戸町立七戸中学校の学習会（希望制）に3日間、それぞれ2～4名の七戸高校の生徒が参加します。1クラス30名程度教室の中で机間巡視をしながら学習支援をしたり、丸つけをしたりします。学習会の進行・指導は中学校の教師が行い、七戸高校生は、補助という形ですが、日に日に中学生と高校生がうちとけ、高校生が気軽に声をかけたり、中学生が手をあげて高校生を呼んだりする姿が見られるようになります。



＜七戸2年 田ノ原みなみさん＞



＜七戸2年 久田ユリ子さん＞



『共に学び、共に高めあう』七戸生と高校生

援が4教科に及ぶので、あらかじめ小学校で用意した分厚い教材を渡されます。また、この事業は青森県で行っている『高校生スキルアッププログラム』と連携して実施されています。

また、学習支援と並行して七戸中学校で部活動支援も行われます。一昨年は、夏休み中にサッカー部とバスケットボール部の活動に参加し、中学生に技術の指導や部活動に対する心



構え、高校生としての経験を伝えました。学校と地域の連携は、七戸町をあげて進めており、町としての振興計画や学校支援地域本部事業にも早くから積極的に取り組んでいます。この取組は、七戸町地域教育力推進協議会の学校支援ボランティア事業の一環としても行われています。この活動が円滑に進んでいる要として、高等学校、中学校、小学校を結びつけるコーディネーターの積極的な活動があり、毎日のようにそれぞれの学校や地域を訪れ、今必要なことをどのように結びつけ取り組んでいくかに奔走しています。

### ここが聞きたい お答えします

Q: この取組が今順調に進んでいる要因は何ですか。

A: 七戸町の地域に対する政策、特に町ぐるみ教育推進委員会の設置。そして、この取組に係わっているすべての人の思いと情熱、特に、七戸高校、七戸中学校、城南小学校のそれぞれの思いが一致していることがあげられます。七戸町の応援とすべての人の連携が大切だと考えます。

### これまでのみちのり

この活動の発端は、七戸町が町の振興と発展を考えて、町ぐるみ教育推進委員会を設置し、学校を含めた各団体や各組織にはたらきかけたことがきっかけとなります。

七戸中学校の校長は、学校力を向上させるためには、是非七戸高校と連携を取りたい、先輩の活動を目の当たりにするだけでも意味があるとの思いを持っていました。同様に、そのときの七戸高校の校長先生も地域に貢献したい、学習、部活動で連携を取りたい、もっと七高生を成長させたいとの思いがあり、両者の思いが一致して活動が始まりました。



七戸高校と七戸中学校の間で学習支援ボランティアが始まったのは、今から3年前になります。内容は学習支援ボランティアと部活動支援ボランティアで連携を持つことになり、中学校は活動の日程と内容について企画し、高校は支援ボランティアを行う際の、生徒の活動ルール作りを行いました。学習支援ボランティアは中学校3年生の学習会に、高等学校3年生が支援するかたちで始まりました。



(現在は高校2年生が支援しています。)その翌年、同様に夏休みに学習会を行っていた、城南小学校から要望があり、支援が始まり現在に至っています。

学習支援ボランティアは今年で3年目となりましたが、今年、学習支援に参加した高校2年生の生徒が3年前に七戸中学校の3年生で学習支援を受ける側だったのです。その時、「私も、もし七戸高校に入学したら、母校に教える側として来てみたいな」と思ったそうです。その時の思いが、今年実現したと大変うれしそうに語ってくれました。

今まで、大きな問題や課題はありません。取組当初は高校生と中学生が接することによるマイナスの面も心配されましたが、そのようなことは全くありませんでした。高校生にとっても好感をもち、理解も深まっており、高校生たちも教える充実感を味わっているようです。

### この活動を行って 成果・課題、そしてこれから

この活動を通して、教える側、教えられる側の双方に得るものがあります。

教えられる側としては、学力(学校力)が向上しました。点数の面での学力だけではなく、いろいろな人とのふれあいの機会を持つことによって、学習、部活動、すべての学校生活において頑張ろうという意識が向上し意欲的になります。

教える側としては、教えることの達成感や教えることよる喜びを感じることができ、将来の進路選択をする上で、この経験が役立ち、さらに、教職を目指す子にとってはスキルアップになります。また、七戸高校が地域に貢献することによって、七戸高校のPRになりました。

今後、よりよい活動にしていくためには、各校間の連絡・調整の回数を増やし、教える側の高校生が、①教える立場として、高校生であるけれども、先生と呼ばれるのにふさわしい態度・考えを一層身につけること、②高校生が持っている力をもっと出せるような学習形態や内容の工夫、③実施時期や実施期間そして実施教科の検討などが考えられますが、現在の活動を維持するための努力をしながら、次の段階に進めていきたいと考えています。

